

スピーカーアキュライザーの導入(5)

—音楽番組放送録画—

1. 始めに

前報(4)に引き続き、スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴を実施します。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとします。

試聴する音楽番組はNHKのプレミアムシアターとクラシック倶楽部の録画から次のような、演奏を聴いたことのある演奏家の演奏プログラムを含めるよう選びました。このうち、*印のものは、演奏曲目が演奏会のプログラムに含まれていたものです。演奏曲目など詳細は、3項の試聴結果で述べます。

再生はDMR-UBZ1録画からSonica DAC経由で再生します。

試聴のポイントは、演奏会とは収録箇所が違いますが、演奏会の印象の再現性です。演奏会は関西方面のホールで、収録は東京近辺のホールです。

ベルリン古楽アカデミー *

郷古簾&加藤洋之 *

タカーチカルテット *

ジャン・ギアン・ケラス&アレキサンドル・タロー *

ゲヴァントハウスオーケストラ

ロンドンハイドン弦楽四重奏団 *

アントネッロ

五嶋みどり

ベルリン Konzert Haus *

アナ・ヴィドヴィチ *

デンハーグ5重奏団 *

ゲバントハウスカルテット *

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

ベルリン古楽アカデミーは、バッハのカンタータの中からシンフォニアを聴きましたが、バロックアンサンブルの古楽器の質感やステージ感が十分に再現され、演奏会の印象が戻ってきています。

郷古簾のヴァイオリンと加藤洋之のピアノは、ベートヴェンのヴァイオリンソナタ1番を聴きましたが、郷古簾の切れのよいヴァイオリンのボウイングとピアノとの息の

あった演奏が再現されています。演奏会はベートヴェンのヴァイオリンソナタ集を2回ほど聴いています。

タカーチカルテットは、ハイドンの弦四重奏曲第39番「鳥」を聴きましたが、第2ヴァイオリンやヴィオラが、鳥の囀りを模したスタッカート奏を奏しますが、そういった演奏の印象が思い出されます。

ジャン・ギアン・ケラスのチェロとアレキサンドル・タローのピアノは、演奏会でもアンコールで弾いたブラームスのハンガリアンダンス第5番ですが、アンコールのリラックスした雰囲気、自由な演奏が伝わってきます。

ネルソンス指揮のゲヴァントハウスオーケストラは本拠地でのチャイコフスキーの交響曲第6番で、演奏会ではブラームスの交響曲第1番で、曲もホールも違いますが、重厚なオーケストラの演奏は録画でも十分味わえます。

ロンドンハイドン弦楽四重奏団は、ハイドンの弦楽四重奏第67番「ひばり」を聴きました。ガット弦のオリジナルスタイルの演奏を行うグループですが、ゆっくり目のテンポでノンヴィブラートの演奏が、演奏会の雰囲気を再現しています。

アントネッロの演奏は、中世スペインの歌曲集「モンセラートの朱い本」で日本の教会での収録です。演奏会ではルネサンス調の日本の戦国時代の物語風の音楽で、収録場所も曲も全く違いますが、バロックより以前のコルネットやオルガネットなどの古楽器の質感は録画でもよく再現されています。

五嶋みどりの録画は、バッハゆかりのケーテン城での無伴奏ソナタとパルティータです。演奏会では、ベートヴェンのヴァイオリン協奏曲だったと記憶していますので、収録場所も曲も違いますが、録画では、ストラディヴァリウスと違う、ガルネリの音が分かります。

日下紗矢子がコンサートマスターを務めるベルリンコンツルトハウスは、パッヘルベルのカノンを聴きました。ノンヴィブラートの弦とチェンバロはリアルそのものです。

ギターのアナ・ヴィドヴィチは、バッハのチェロ組曲のギターへの編曲を聴きましたが、女性の奏者らしい、優しい響きが魅力です。

デンハーグ5重奏団はシューベルトの鱒を聴きましたが、演奏会とは第一ヴァイオリンのメンバーが代っているものの、オリジナル楽器仕様の弦楽の響きは、十分に伝わってきます。

ゲバントハウスカルテットは、ハイドンの弦楽四重奏「皇帝」を聴きましたが、2楽章の美しさは十分に再現されており、特にヴィオラの音色が魅力です。演奏会は3回ほど聴いています。

4. まとめ

演奏会で聴いたことのあるプログラムの収録録画を含めて試聴しましたが、演奏会

の雰囲気をよく再現しています。

以上